

## 助産学実習Ⅳ継続事例

### I. 目的

妊娠期・分娩期・産後1か月までの母子と家族に対して継続した助産実践ができる能力を養う。

### II. 目標

1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過を総合的に捉え、助産診断および継続したケアを実施できる。
2. 対象者とその家族の個別性に応じた保健指導が実施できる。
3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の援助の評価ができる。

### III. 実習施設

国立病院機構岡山医療センター

### IV. 単位数および時間数

1 単位 45 時間

### V. 教育内容

1. 妊娠期から産褥期までの継続した助産ケア
2. 保健指導

VI. 実習目標・行動目標・実習内容

実習目標	行動目標	実習内容
<p>1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過を総合的に捉え、助産診断および継続したケアを実施できる。</p>	<p>1. 妊娠期の助産過程の展開ができる。</p> <p>2. 分娩期の助産過程の展開ができる。</p> <p>3. 産褥期・新生児のケアが実施できる。</p>	<p>1. 妊娠期の助産過程の展開</p> <p>1) 妊娠期～分娩期～産褥期の全体計画の立案</p> <p>2) 妊婦健康診査および指導計画の立案</p> <p>3) 妊婦健康診査</p> <p>2. 分娩期の助産過程の展開</p> <p>1) 妊娠中のアセスメントをふまえた分娩期のケアプラン</p> <p>2) バースプランを反映したケアプラン</p> <p>3) 分娩介助の計画</p> <p>3. 産褥期・新生児のケア</p> <p>1) 産褥期（入院中）、新生児の計画・ケア</p> <p>2) 産後健診（2週間健診、1ヵ月健診）</p> <p>3) 乳児1ヵ月健診</p>
<p>2. 対象者とその家族の個別性に応じた保健指導が実施できる。</p>	<p>1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期を通じて、対象者の必要な保健指導ができる。</p>	<p>1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期を通じた保健指導</p> <p>1) 妊婦中の保健指導の計画</p> <p>(1) 妊娠中の食事指導</p> <p>(2) 母体の変化と児の発育</p> <p>(3) マイナートラブルの対処</p> <p>(4) 育児の準備</p> <p>(5) 妊娠後期に起こりやすい異常と予防</p> <p>(6) 入院物品の準備</p> <p>(7) バースプラン</p> <p>(8) 分娩が近づいた徴候と入院時期、連絡方法</p> <p>(9) 分娩経過と過ごし方</p> <p>(10) 母乳哺育の準備、乳房の手入れなど</p> <p>2) 保健指導の実施・評価</p> <p>(1) 指導案の作成</p> <p>(2) 保健指導の実施・評価</p> <p>3) 産褥入院中の保健指導の計画・実施</p> <p>(1) 産褥経過とセルフケア</p> <p>(2) 産褥期に起こりやすいマイナートラブル</p> <p>(3) 育児指導</p> <p>(4) 家族計画指導</p> <p>(5) 産褥期に起こりやすい異常と受診すべき症状</p> <p>(6) 地域社会資源の活用</p> <p>4) 産後2週間～1ヵ月の保健指導の計画・実施・評価</p> <p>(1) 母体の一般状態の良否判断、日常生活の拡大</p> <p>(2) 育児状況とアドバイス</p> <p>(3) 精神状況、EPDS 評価</p> <p>5) 児の1ヵ月健康診査の計画・実施・評価</p> <p>(1) 児の発育状態、養育状況の評価</p> <p>(2) 母乳栄養の状況と栄養法</p> <p>(3) スキンケア、皮膚トラブルなどの対処</p> <p>(4) 予防接種スケジュール</p> <p>(5) K2 シロップの服用</p>

実習目標	行動目標	実習内容
3. 妊娠・分娩・産褥・ 新生児期の援助の 評価ができる。	1. 個別性を踏ま えた援助ができ たか評価でき る。	1. 個別性を踏まえた援助の評価 1) 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児の経過の総括 2) 退院後の継続ケアの考察 3) 助産ケアの評価 4) 助産師の役割・責務の考察